西村　文宏　　論文審査の要旨

論文題目　薬剤性並びに外科手術誘発性の急性腎障害の回避を企図した腎機能評価と薬剤選択に関する検討

審査内容

近年、薬学管理を基盤としたエビデンスの構築とその波及効果の検証が質の高い医療を提供にする上で重要視されてきた。本研究では、申請者の担当病棟で問題視されてきた急性腎障害の予防と軽減化を目的として、各疾患群に対する適切な腎機能評価方法並びに薬剤選択を様々な統計学的手法により比較検討することで、それらの有効性と安全性を明らかにした。

具体的には、尿路上皮癌（UC）の薬物治療にはシスプラチンをベースとした化学療法が主流であるが、シスプラチン適応患者の選定ならびに用量調節を行う際には、eGFRcys が mGFR に代わる有用な指標となることが見出された。また、心臓血管外科周術期術後の急性腎障害予防には、非侵襲的で装置を必要としない SPPB テストの活用が用いることで，サルコペニア患者に対する腎機能の過大評価を回避できるため適していることが明らかとなった。さらに、開腹根治的前立腺摘除術後の急性腎障害予防には、アセトアミノフェンによる疼痛管理が適していることが傾向スコアマッチングにより示された。

今回得られた研究成果は、既に入院患者の医療マネジメントに活用されており、質の高い医療に貢献することが大いに期待される。質疑に対しても豊富な知識に裏付けられた適切な対応であった。

以上の観点から、博士論文として十分に値すると判断した。

審査委員　薬剤学分野　　教　授　丸山　徹

審査委員　臨床薬物動態学分野　　教　授　齋藤　秀之

審査委員　臨床薬理学分野　　准教授　近藤　悠希